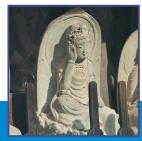
寺町寺院群

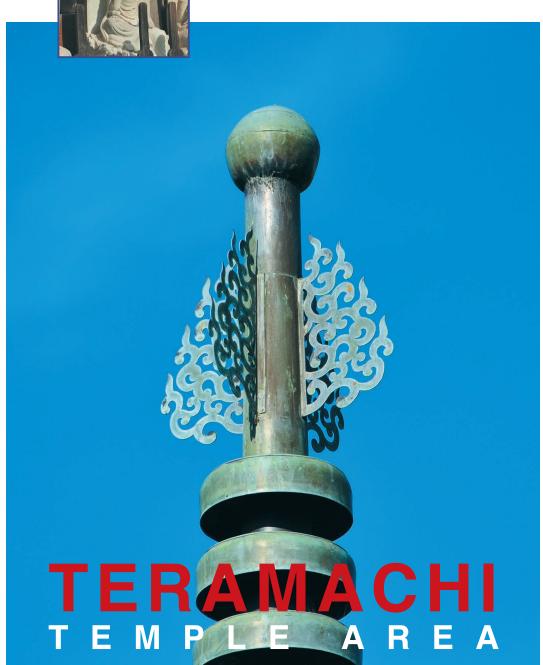
美しき川は流れ、ゆったりと時は流れる。









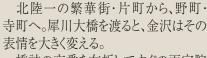


「静音の小径」を歩く











橋詰の交番を右折してすぐの雨宝院 は、文豪・室生犀星が養子として幼少 期を過ごした真言宗の寺。少し先の生 誕の地には「室生犀星記念館」が建っ ており、故郷金沢を原点とした犀星の生 き方や文学の魅力に触れることができる。 雨宝院の筋向かいを入ると左手に高い 石垣が続く。ここは文政の頃からの縁起 物「あぶり餅」で知られる神明宮の裏手 にあたり、境内には樹齢一千年と言われ る大ケヤキがそびえている。隣に並ぶ豪 姫ゆかりの大蓮寺を道なりに進むと「に し茶屋街」が見えてくる。入口横には駐 車場と休憩所が完備され、西茶屋資料 館には観光ボランティアガイドも常駐。一 階にはこの茶屋街で育った大正のベス トセラー作家・島田清次郎に関する資



料などが展示されている。

三味線の音が聞こえる組合事務 所の横小路を進み、南大通り(野町) へ。横断歩道を渡ると、右手に松尾 芭蕉の弟子・小杉一笑の菩提寺に ある願念寺が目に入る。山門横には 芭蕉が追悼の席で詠んだ「つかも動け 我が泣く声は 秋の風」の句はあり が建ち、物悲しさを誘う。細い道はがり、 者寺で有名な妙立寺横へつながり、 田鶴来街道に出ると数多くの寺社が 軒を連ねる通りが続く。道なりに歩の に見。藩政時代、火災の延 の広見の中では最も広い。ここから



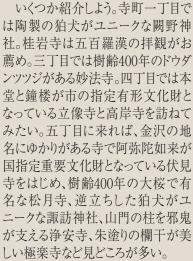








泉野方面へ足を向けると、市の保存 樹林指定で三代利常の命による竹 林が残る龍渕寺や境内入口に多く の石仏がある前田家ゆかりの月照寺 など趣のある寺院が点在する。金沢 では珍しい赤門の興徳寺を経て寺 町大通りへ出れば、景観上重要な山 門と築地塀が続き、荘厳な佇まいを 見せる寺院が通り沿いに連なる。寺ま た寺の、まさに寺町である。



往時の面影をしのびながら、ゆっくりと散策し、様々な寺院を訪ねる旅の時間。「美しき川は流れたり」と犀星が詠った犀川が、いまも眼下を静かに流れる。



















やさしく微笑む石仏たち。

夕暮れの鐘が心に静かに響いてくる。

寺院・神社めぐり

の小径



の寺院は拝観不可です





天平8年(736)、白山開山の 泰澄大師が創建。その後文禄2 年(1593)雄勢上人により再興

された。金比羅大権現を本尊と する寺である。金沢の文豪室生 犀星は当院の養嗣子となり、 『愛の詩集』『杏っ子』などの名 作を残した。

拝観 境内のみ 👨

鎌倉期、天台宗寺院として卯 辰山に開山。浄土真宗に改宗 後、元和2年(1616)前田家の命 にて当地に移転。本堂は享保期 (1716~36)の様式を残してい る。金沢別院の本尊は当寺より 移転されたものである。建築家 故谷口吉郎氏の菩提寺でもあ



拝観 境内のみ 🧿

300年以上続く「あぶり餅神 事」でも知られる。弊形に串刺 しにした餅を聖火であぶり食 すると悪事災難厄除けに御利 益があると言われる。詩人中原 中也や文豪室生犀星とも縁深 い神社。境内には樹齢1000年を 越える大欅が屹立する。



初代利家の四女・豪姫の位 牌所として知られる。野田山に ある豪姫の五輪塔の墓を今も 守り、豪姫の位牌と念持仏であ る聖観音を寺宝として安置。境 内には豪姫と夫・宇喜多秀家 の供養塔はじめ茶商・堂後屋、 儒者・藤田維正などの墓があ る。



天和2年(1682)僧宗入の創 建になる。明治初期の大火で類 焼し、現在地に移転した。建物 は平成元年に再建されたもの である。



寛永年間(1624~44)創建。 石川郡押野の上宮寺に越中国 井波の瑞泉寺第8世・准秀の 次男・宣心が入寺、瑞泉寺と改 名した。



門前に松尾芭蕉の「塚もうご け我が泣く声は秋の風 |の句碑 があるが、この句は奥の細道の 旅の途中、弟子・小杉一笑の死 を知って詠んだ句。小杉家の菩 提寺でもある。一笑を記念する 「一笑塚」が境内に建っている。



六本柱の山門・本堂ともに、 創建の年代に近い江戸初期の 様式を残しており、本堂の向拝 虹梁および蟇股が趣深い造り になっている。本尊は一尺七寸 の阿弥陀仏像。境内には狂歌で 一世を風靡した瀬波屋鶏馬の 墓がある。



正保2年(1645)創建。延宝2 年(1674)に再建した本堂は、江 戸中期の貴重な建物。寺宝には 金沢市文化財指定の絹本刺繍 の仏涅槃図や、画僧・心岩作の 寒山拾得図などがある。



三代藩主前田利常の命により、1643年に加賀藩祈願所として創建された。金沢城の出城としての役目を持つと言われ、落とし穴や隠し階段など種々

としての役目を持つと言われ、落とし穴や隠し階段など種々の仕掛けが施され、迷路状の複雑な構造を有することから「忍者寺」と呼ばれている。



宝暦12年(1762)の大火で焼失後、学僧・日鑑らにより再建。本堂内で9年の歳月をかけ制作した国内では珍しいフレスコ壁画「釈尊伝」が平成28年に完成。参拝者なら拝観できる。前庭には芭蕉の「春もやいけしき調ふ月と梅」の句碑が建っている。



宝暦12年(1762)付近269軒が 焼失する大火があったが、境内 の稲荷社は無事であった。稲荷 社は金沢城内出火の折に預け られた社。類焼が免れたのは稲 荷社の威光であるとして「眞長 寺稲荷霊異記」が伝えている。



美濃(岐阜県)の禅僧・千岳宗仞禅師が創建した寺。千岳禅師は三代利常からの信頼が厚く、また能筆で文章力にも優れていたため、利常から小松の梯天満宮棟札の揮毫を命じられたりした。山門および本堂は創建当初の建物と考えられている。



寺内の鬼子母神堂には安宅 関の沖合より浮かび上がった といわれる鬼面があり、年1回 節分会に開帳される。本堂板戸 に描かれた絵は、江戸時代の画 家・俵屋宗達の作とされる。境 内には幕末に勤王説を唱えた 藩士・福岡惣助の墓がある。



後醍醐天皇の第八皇王・仏 眼明心法親王(宗良親王)が開 創。二代利長が金沢城に入場の 際、越中(富山県)守山で帰依し ていた極楽寺暫譽上人を招請。 その後、三代利常から現在地を 拝領し建立。金沢四大仏の一つ 丈六の阿弥陀仏を本尊とする。



当寺は、天正12年(1584)、前田 利家の息女菊姫を弔う菩提寺と して金沢城付近に建立された。 (菊姫の肖像画を奉る。)元和2 年(1616)当地に移築され、利家 奉納「天神画」、当寺に伝わる「飴 買い地蔵」を安置し、藩政期より 金沢城下すべての霊場に指定 される願掛け寺として現在も信 仰される。



明治11年(1878)、大久保利通を東京の紀尾井町で暗殺した島田一良たちの集会所であったことで知られている。そのため事件の首謀者たちは「三光寺派」と呼ばれた。山門は平成3年(1991)に石の仁王門として現住職自ら制作し再建。



開山は天正年間、前田大炊の 第三子が出家し、越中(富山県) 射水郡守山の海老坂に創建し たことが起こり。その後三代利 常の時代に現在地に移った。本 堂には、能登末森城の守り本尊 であったと伝えられる観世音 菩薩像が安置されている。



慶長16年(1611)、長門町(現・片町)にあった山崎長徳の下邸内に創建。越前南条郡高瀬の宝円寺住職・廣山を請うて開山とした。寛永12年(1635)現在地に移転。明治期に伽藍を焼失したため、江戸後期の坐禅堂を本堂としている。



加賀藩士・青木五兵衛が三 代利常に願い出て創建された 寺。青木は御影堂を造り利常の 位牌を安置。青木家の家伝・菅 原道真の画像も納めたが、出火 により御影堂は焼失。天保4年 (1833)作の不動明王は霊薬不 動尊として知られる。



二代利長夫人・玉泉院の 二十五回忌法要の折、小松から 三代利常がお参りに訪れ、装束 を当寺で改めたと伝えられる。 境内の秋葉権現を祭る堂は火 ぶせの神として尊信されてい る。タカジアスターゼ創製の高 峰譲吉博士の菩提寺でもある。



寺宝として十一面観音像や 菅原道真の像があり、本堂内に は十三代斉泰から授かったと みられる「前田斉泰公奉納」の 文字が刻まれた精密な常夜灯 がある。当寺所有の梵鐘は、名 工・宮崎寒雉の手によるもの で美しい音色で知られる。



初代利家はこの寺を崇敬し、 末森の合戦以降、歴代藩主の祈 願所となった。寺宝・十一面観 音は前田家よりの預かりもの だという。前田家からの祈願書 状が入っていた「経筒」は、精巧 な毛彫で鶴亀と松竹梅の吉祥 紋様が施された名品。



文明年間(1469~87)、僧・慶緑が蓮如上人に従って加賀を布教した折、石川郡で創建。3世・慶俊の時、佐々成政の重臣・黒川又右衛門が当寺に入って僧となり4世となった。慶珍は本願寺と誓願寺の紛争の際に本願寺のために功を成した。



正徳3年(1713)、皆恵により 現在地で創建された。



承応2年(1652)、光要院日達 上人を開山として、源入山本光 寺を創建。前田家に仕えた勤王 の志士・不破富太郎、金沢の経 済発展に多大な貢献をした明 治初期の貿易商・圓中孫平の 各墓所がある。昭和初期に現山 号・寺号とする。



昭和24年(1949) に創建された。現堂宇は昭和46年に建てられたものである。



二代利長夫人であり織田信 長の五女・玉泉院が、三代利常 に請うて玉泉院を創建。玉泉院 没後、玉泉寺と改め玉泉院の位 牌所となる。境内の奥には、玉泉 院の供養塔と言われる五輪塔 が残されており、往時の面影が 偲ばれる。



加賀八家前田長種家菩提寺。 長種は、元尾張前田荘の領主、 織田信長に逆って放逐された が後に前田利家の家老となっ た人。利家の長女幸姫の夫、三 代利常の守役長種家代々の墓 の他、幸姫の菩提を弔う宝篋印 塔がある。寺宝「厨子入舎利 塔」。



初代利家の長女・春桂院(幸姫)の菩提寺。三代利常より寺地が加増され大伽藍を建立したが六斗の大火で類焼。現在の建物は前田家の屋敷の一部を移転し再建した。石仏は卯辰山の33体と鶴来街道の33体の観音仏を集め安置したもの。



創建に関わった三輪志摩長 好は三代利常に願い御骨堂を 建立、二代利長の分骨と位牌を 納めた。利長夫人であり織田信 長の五女・玉泉院はしばしば 当寺に参詣したという。はじめ は本長寺と輪番で前田家領内 同流派寺院の触頭を務めた。



境内には竹田忠順や富永家などの墓がある。竹田忠順は火消役で寺社奉行や公事場奉行を務め、連歌を好んだ加賀藩家臣。富永助信、助盛らは代々藩に仕えた武士で香林坊に住み、「福は内、鬼も内」と言って豆まきをしたことで知られる。



慶長4年(1599)に、二代利長 と共に高岡から移転。加賀八家 の一つ長家の菩提寺であり、六 代善連、七代連起、八代連愛ら 一族が葬られている。長連龍の 娘で、利長の養女となり、前田 美作守直知の継妻となった久 香院(求光院)の墓もある。



天正10年(1582)、尾張にて創建。摂津に移転の後、加賀藩家臣・前田長種を介し犀川川原に寺地を拝領し再建。境内には三代利常の命による藩主公用の竹林が残る。書家・独角宗麟や、加賀古流生花の始祖・近藤理清の墓などがある。



慶安2年(1649)本是院日理 上人が創建。守護神「七面大天 女」像は、日蓮宗総本山身延山 久遠寺31世・一円院日脱上人 より遣わされた身延七面山の 尊像と同体。明和3年(1766)法 華懺法会を厳修、金沢の日蓮宗 寺院で受け継がれている。



正保4年(1647)の創建で、天 徳院二代竜睡が開山であり、僧 恕竜が開基である。後一時無住 の寺となったが、天徳院五代の 良因によって再興された。



慶長15年(1610)、僧了善が石 川郡窪村で創建した。享保17年 (1732)、現在地に移転。鎌倉時 代の作である聖徳太子2歳の 木像仏を安置する。



輪島市にある大本山総持寺祖 院内、芳春院の大昌文意和尚を開 山とし、寛文元年(1661)土屋勘四 郎が創建。勘四郎は藩主に忠誠を 誓う証として、一向宗から禅宗に 転宗した。檀家・土屋又三郎は近 世農政における日本三傑といわ れる。



羽咋市妙成寺の末寺で天保元年(1644)秀閑日受が宝達山に建てた寺が起こり。寺蔵の鬼子母神像は前田家の家臣、青磁焼きの祖:諏訪蘇山の作。山門の紅い門は当山に安置の加藤清正公が朝鮮出陣の武運長久の祈願の為と伝えられている。



河北郡倶利伽羅山の長楽寺の僧・弘誉を開山に迎え創建。 十代重教の頃より前田家の祈願寺となる。不動明王、歓喜天、毘沙門天、千手観音を祀る。大仏さまの六角堂として有名。堂は十二代斉広の産母・貞淋院の発願により建立された。



文化6年(1809)の海運天麟和尚の発願により五百羅漢安置がはじまる。その後、20世円戒和尚、21世欄牛和尚が残りの尊像を完成。昭和37年4月火事により焼失したが、復興を発願し、昭和62年に完成奉賛法要が行われた。



祭神天照皇大神は延徳年間 (1489~92)に闕野伊右衛門が 泉野の新村領地を開墾した際、 土中より出現したもの。これを 祀り神明宮としたことが起こ り。拝殿内や境内の欅の木にか けられた天狗の面は、厄除、災 難除として信仰されている。



当初、珠洲郡上戸村にあったが、泉野の地で寺領を拝領し、 天明元年(1781)当地に移った。 中興は弁誉和尚であり、現在の 建物は江戸後期のものである。



元和9年(1623)、丹波国円通 寺の住持であった融山泉祝和 尚が、加賀藩家老・横山長知の 請を受け、八坂で松山寺を建 立。その後隠居して結んだ庵が 当寺の起こり。3000坪を有す る伽藍となるが、幕末の廃仏毀 釈で堂宇は消滅した。



承応元年(1652)、根誉源政の 創立。大正2年(1913)に永福寺 を合併した。本尊の善光寺式阿 弥陀如来立像は黄金色の仏像。 両脇には観音、勢至の両金銅製 の菩薩像が侍立している。現在 の建物は江戸後期のものであ る。



文禄4年(1595)、七尾城主であり「冨田流剣法」中興の祖・冨田治部左衛門與六郎景政の兄・冨田治郎左衛門與五郎景家が桜畠に母の菩提寺として創建したことが起こり。昭和22年、『本門佛立宗』の一宗独立に伴い、今日に至る。



天正元年(1573) 開基。円智院妙 浄尊霊尼は初代利家の弟・佐脇藤 八郎良之の息女で、開基持仏の鬼 子母神木像奉安。墓所には藩医・内 藤蘭州、金沢歌舞伎の嵐冠者、俳 人・杉原竹女などの墓があり、市指 定天然記念物のドウダンツツジが ある。



永正山 実成寺

拝観 境内のみ 📵 建物内 要予約

由来書によれば、十代重教の 生母・実成院から国家安泰の 祈祷を命ぜられたとある。宝暦 11年(1761)、実成院が没すると 当寺において葬礼が行われ、霊 屋が設けられた。実成院の法号 は、当寺の号を採ったものと思 われる。



天正14年(1586)、越前府中本 興寺より教行院日宥上人を招 き開創。墓所には加賀藩に仕 え、富山県の国宝瑞龍寺、羽咋 市の妙成寺、気多大社、小松市 の那谷寺、小松天満宮などを造 営した名工・山上善右衛門の 墓がある。



創建に三代利常の祖母・寿命院の再婚先小幡家が木材を寄進。そのため小幡家の定紋松皮菱が欄間に彫られている。第22世日輝上人が子弟訓育のための充洽園を創設。日蓮宗近世教学の発祥地とも言われた。境内にはキリシタン灯籠がある。



寛永元年(1624) 開山は仰誉 是伯上人で、大坂夏の陣で戦死 した父・大円宗吟大居士を供 養するため草庵を建立したこ とが起こり。3代・心岩作の 「人骨地蔵尊」は、無縁仏を哀れ み、骨を砕いて塗り込めた高さ 4メートル余りの延命地蔵尊。



法華宗,炒個寸

拝観 境内 词 参拝のみ

慶安2年(1649)、実成寺八世・本覚院日誉の創建。当寺は加賀藩士・岡本右太夫ゆかりの寺でもある。右太夫は参勤交代の途次、金沢へ帰郷の際、孟宗竹2株を持ち帰り移植した。この地におけるタケノコ生産の礎を築いた人物といわれている。



元和元年(1615)、京都本能寺 第12世伏見宮日承の弟子・真 浄院日得を開山に迎え創建。横 山康玄乳母の菩提所となり、横 山家の懇願にて寺地を拝領。北 条氏直の重臣松田家や関流剣 術の関重秀、加賀藩初代 堂頭 の市井友仙等の菩提所でもあ る。



鶴雲山 長久寺 曹洞宗 長久寺

延宝4年(1676)、野田寺町覚源寺の遺址である現在地に移り長久寺を建立。当寺は、前田利春の三女で初代利家の妹・津世の菩提寺でもある。境内には芭蕉の碑や、樹齢400年近くになる金沢市保存樹の銀木犀がある。



Table 局岸守

本堂・鐘楼:金沢市指定有形文化財

前田家の重臣・高畠石見守の菩提寺で高畠家は初代利家の正室まつの実家。境内にあった茶室「犀枩軒」は三代利常の命名。本堂・鐘楼・附棟札は金沢市の有形文化財。鐘楼は祠堂上にあり金沢城と有事際の合図で普段は撞けず「撞かずの鐘」として有名。



天正13年(1585)、仏蔵院日敬 上人が越中関野に創建。神保安 芸守長純の室・天心院殿妙典 日 叡 大 姉 が 開 基。慶 長14年 (1609)金沢河原町に移り、元和 2年(1616)現在地に移転。「鋳 造三具足」は釜師宮崎彦九郎義 一作で市指定文化財。



元和9年(1623)、越中高岡本陽寺の弟子・円重院日覚が創建した。開基旦那は二代利長に仕えた中将という女中で、中将は日覚の姉にも当たる。境内には、加賀騒動の際のお貞(真如院)とかかわりのあった半田家の墓もある。



室町初期に創建の「八幡宮」が起源と伝えられ、三代利常の時に野村宗順と大平右京が上申し、鷹狩の祈祷のため信州、諏訪明神を勧請、合祀した。祭神は、建御名方神、誉田別命。毎年旧暦7月26日の夜、特殊神事・月拝祭(三光さん)が行われる。



本尊の阿弥陀如来像は平安 初期の金銅仏の力作、国の重要 文化財。金沢の地名発祥にまつ わる芋掘藤五郎ゆかりの寺。金 沢観音霊場第14番札所。また護 摩堂にある木彫の不動明王坐 像は、弘仁期(810~24)の作と 伝えられる。



境内には「大桜」と呼ばれる 老桜がある。当寺二世至岸和尚 が、三代藩主利常公から小松城 内にあったものを拝受したと 伝えられ、「御殿桜」の異名を持 つ。学名をショウゲツザクラと 言い、樹齢は約400年、国の天然 記念物に指定されている。



初代利家と同じ尾張荒子出身の貞蓮社白誉岌松上人が天正3年(1575)、利家の命を受けて建立。延宝元年(1673)作の「寄木造り阿弥陀如来坐像」は、金沢四大仏の一つに数えられている。八臂弁財天、大黒天、毘沙門天の3体を奉る。



後醍醐天皇第八皇子が極楽寺を建立したのが始まりで、初代利家の家老・松平康定は利家と越中の佐々成政と交戦の折、極楽寺を本陣とし戦勝。後に寺は康定に伴い金沢に移り妙慶寺と改名。元日本排球協会会長で男子金メダル監督の故松平康隆氏、国連日本初代大使松平康東氏の祖先墓がある。



本堂は創建当初のままの切妻・平入・桟瓦葺・向拝付きで、書院造り的な江戸初期の建築様式が見られる貴重な建物。境内には俳人・堀麦水らが建立した「あかあかと日はつれなくも秋の風」の芭蕉の句が刻まれた「蕉翁墳」がある。



文安元年(1444)、本願寺5世・綽如上人の実子・鸞芸法師が能美郡西山に一宇を創建し浄徳寺と号する。やがて聖徳太子の夢のお告げによって同郡鵜川に移転。本願寺第15世・常如上人の一字を賜り常徳寺に改名。梵鐘は初代・宮崎寒雉の作。

室生犀星記念館

金沢市干日町3-22 TEL (076)245-1108 【開館時間】9:30~17:00(入館は16:30まで) 【休 館 日】 火曜日(休日の場合はその直後の平日) 年末年始、展示替期間



ふるさと金沢を愛した文豪 犀星文学にふれるミュージアム

雨宝院に程近い室生犀星の生家跡に建つ記念館。犀星の生涯がわかる年譜をはじめ、直筆原稿や書簡、初版本などの貴重な資料を一堂に展示し、その生き方や魅力に気軽にふれることができる。吹き抜けのホールにディスプレイされた150点余りの表紙装丁も見応えがある。



金沢市 西茶屋資料館

金沢市野町2-25-18 TEL (076)247-8110 [入 館 料] 無 料 [開館時間] 9:30~17:00 (無休) ※金沢観光ボランティアガイドまいどさん常駐

大正のベストセラー[地上]の作者 島田清次郎の生涯を紹介

にし茶屋街の西端、島田清次郎が少年期に移り住んだ茶屋「吉米楼」の跡地に建つ。 1階では清次郎に関する様々な資料を展示するほか、朱塗りの壁や金屏風が艶やかな2階では当時の茶屋の雰囲気が味わえる。玄関横のウインドーには加賀獅子頭や獅子舞装束も展示されている。











寺町寺院群 文学の薫り高き町

金沢三文豪のひとり室生犀星は、生後すぐに養子に出され、雨宝院で幼少期を過ごした。孤独な生い立ちは生涯その作品に影響を与え続けたと言われる。「抒情小曲集」「幼年時代」「性に眼覚める頃」「杏つ子」などこの地を舞台にした作品は多い。石川県美川町(現白山市)で生まれた島田清次郎は、小学校入学前に祖父の経営する茶屋「吉米楼」(現在の西茶屋資料館)に移り住んだ。大正8年、20歳で発表した自伝的小説「地上」で一躍大ベストセラー作家となったが、波乱の人生は31歳の若さで幕を閉じた。この他ゆかりの作家では、幼稚園時代を金沢で過ごした詩人・中原中也(有名な詩「サーカス」は、その当時の神明宮での思い出がもとになったと言われている)。また、四高時代に井上靖が散歩道としていたW坂には、自伝的小説「北の海」の文学碑が建つ。



中原中也 文学碑 《寺町五丁目緑地内》 随筆[金沢の思い出]の一節 の碑が建つ。



島田清次郎 文学碑 《にし茶屋街入口緑地内》 小説「地上」の一節の碑が建



井上靖 文学碑 《石伐坂(通称W坂)の途中》 小説「北の海」で、W坂が登場 する一節の碑が建つ。



室生犀星 文学碑 《犀川大橋ほどり雨宝院前》 小説「性に眼覚める頃」の一節の碑が建つ。

その美しき川の流れは、彼らの瞳に どう映っていたのだろう。



室生犀星 詩碑《犀星のみち·桜橋右岸ほとり》 小景異情の詩[あんずよ花着け・・・]が刻まれている。

愛弟子・小杉一笑と会うことを、 芭蕉は何より楽しみにしていたという。



芭蕉句碑 《野町一丁目願念寺》 「つかも動け 我が泣く声は あきの風」

松尾芭蕉の句碑を巡る

元禄2年(1689)、俳聖·松尾芭蕉は門人の曾良を伴って「奥の細道」の旅に出、 その途中金沢に10日間ほど滞在して多くの句を詠んだ。寺町寺院群では、そんな芭 蕉の句碑と出会うことができる。





芭蕉句碑〈野町丁目 本長寺〉



一あかっと 日はつれなくも 秋の風」 芭蕉句碑《野町一目 成学寺》



8

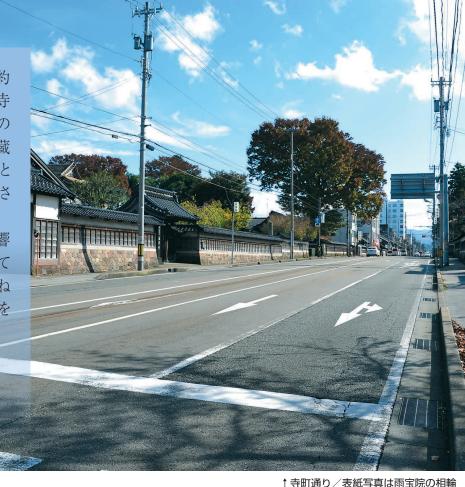






金沢三寺院群のなかで最も規模が大きく、約 70%の寺社が集まっているここ寺町には、忍者寺 として有名な「妙立寺」、国指定天然記念物の 大桜がある「松月寺」、人骨で作った延命地蔵 尊を安置する「大円寺 |など、それぞれに歴史と 物語を伝える寺社が軒を連ね、その町名にふさ わしい風情と佇まいを遺している。

また、毎週土曜の夕方には梵鐘が空に鳴り響 き、「残したい日本の音風景100選 | にも選ばれて いる。境内や路地に建つ数多くの文学碑を訪ね てみたり、格子戸と石畳が続く「にし茶屋街」を 覗いてみるのもおもしろい。





歩く、観る、祈る。

金沢三寺院群の旅

金沢三寺院群とは

元和2年(1616)ころ、加賀藩三代藩主・前田利 常は金沢城の防備や寺社の管理、人別(現在の 戸籍)を行うため、さらには一向宗対策として、城下 に散在していた寺社を3か所に移転・配置した。城 の南東にある「小立野寺院群」、北東の「卯辰山 山麓寺院群」、南西の「寺町寺院群」。それぞれに 趣きのある3つの"寺のまち"を歩けば、知らなかっ た金沢が見えてくる。まずは一番訪ねてみたい寺 院を決めて、その近隣を巡ってみてはどうだろう。



発 行 金沢市観光政策課

金沢市広坂 1-1-1 2076-220-2194 FAX 076-260-7191 https://www.kanazawa-kankoukyoukai.or.jp



金沢旅物語



※各寺社の御朱印・御朱印帳の有無は HP よりご確認いただけます。 御朱印はすぐに対応できないことがございますので、あらかじめ 各寺社にお問い合わせいただくことをおすすめします。

※このパンフレットに掲載の内容は、令和6年時点のものです。